広報
No.753
令和８年

いいたて11

www.vill.iitate.fukushima.jp

「70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い」でお祝いしました



コロッケさんといいたて希望の里学園の子ども達

The most beautiful villages in japan

目次　CONTENTS

03　話題「とうほう・みんなの森づくり」
04　特集「70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い」
08　学びの広場 拡大版「赤蜻蛉祭」「全国学力・学習状況調査」ほか
16　農政のページ「飯舘牛復活にかかる牛肉試食会」ほか
18　空から百景「秋晴れの比曽」
20　生涯学習のページ「いいたて村文化祭」「金婚表彰」ほか
24　いいたて便り
26　話題のパレット
29　お知らせ「飯舘村職員２次募集」ほか
30　村からおしらせInformation／10月のできごと
32　いいたて20行政区　vol.7 大倉行政区
33　いいたて今昔物語／ふれ愛館だより
34　報告「飯舘村の魅力を発信！」／いいたてPHOTOリレー
35　愛楽故郷味／ひとのうごき
36　ほっとNEWS「いいたて漆プロジェクト」ほか

11月15日開催のふくしま駅伝に飯舘村チームが出場します！

ふくしま駅伝が開催されます　飯舘村チームを応援しましょう！

今年のふくしま駅伝に飯舘村チームは後半９区間（第８区～第16区）に出場します。村民の皆さまの熱い声援が、選手の走りの後押しになります。飯舘村の選手たちがタスキを繋ぐ姿を、沿道や、ゴールの福島県庁で応援してください！



１１月１５日（日）　午前１０時過ぎに第８区（開成山陸上競技場）をスタート！

水色を基調としたユニフォームで胸に『ＩＩＴＡＴＥ』の赤い文字、ゼッケンナンバーは５２です。

問 いいたてスポーツ公園 ☎0244-42-0152　FAX 0244-42-1300

「二十歳の成人式」出欠報告をお願いします

「令和９年二十歳の成人式」を開催します。対象者の皆様へ式典のご案内を送付しましたので、回答用紙にご記入の上、返送してください。なお、対象者で案内が届いていない方や、対象者以外で出席を希望する方は、生涯学習課までご連絡をお願いします。

令和９年１月１０日（日）　午後１時30分 開式　飯舘村交流センター「ふれ愛館」ホール

平成１８年４月２日から平成１９年４月１日までに生まれた方で村に住民登録のある方、または村の学校に通学していた方を対象にご案内を送付しています。

問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

今月の表紙

立村70周年を祝うイベント「70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い」のスペシャルステージに出演したものまねタレントのコロッケさん。同じく素敵な歌とダンスで出演したいいたて希望の里学園の児童生徒との記念撮影です。時間が限られていた中、やさしく言葉をかけながら、子ども達と交流していただきました。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係☎0244-42-1613までお知らせください。

今月の話題



佐藤頭取と記念植樹をした中川碧人君（右から２人目）と生琉君（左端）。「楽しかった。大きくきれいな木に育ってほしい」と笑顔でした。







とうほう・みんなの森づくり　230人の参加者が1,200本の苗木を植樹

10月3日、東邦銀行（本店：福島市）から、佐藤稔頭取をはじめ、行員の皆さんとその家族など約230人が来村し、いいたてパークゴルフ場南側のエリアに、コナラ、クヌギ、マツ、モミジなど約1200本の樹木を植樹しました。

福島県の「企業等の森林（もり）づくり」事業を活用した取り組みで、「福島県森林・林業・緑化協会」などの協力で飯舘村での植樹が企画されました。

参加した行員の皆さんを代表して、飯舘村出身の松岡政晃さん、大内良真さん、中川昭彦さんの子どもの碧人（あおと）君、生琉（はる）君が、佐藤頭取らと八重桜の「はるか」を記念植樹。杉岡村長が、「除染した田畑に覆土する土を確保するために切り開いた場所が、皆さんの手の温もりが伝わる、生命がつながる森に生まれ変わる」と感謝を伝えました。

植樹後の昼食会場では、「いいたて村の村民食堂」による豚汁などの振る舞い、木工教室などが行われました。

70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い

感謝と喜びをともに、第１部で飯舘村敬老会を挙行



敬老者を代表し、謝辞を述べる鴫原良友さん。

10月4日、いいたて希望の里学園第一体育館で、飯舘村の立村70周年を祝う記念イベント『70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い』を開催しました。

第1部では『令和8年度飯舘村敬老会』を催し、第2部の記念アトラクションでは、飯舘村の70年間の歩みを映像で振りかえり、ものまねタレント・コロッケさんのスペシャルステージを皆で楽しみました。また、会場前の飲食ブースには村自慢のグルメも登場し、来場者をもてなしました。幅広い世代の約600人が集い、70周年の歩みを見つめ、感謝と喜びをともにする1日となりました。









たくさんの笑顔に会えました。
どうぞこれからもお元気で！





❶ペットボトルのお水を手に高らかに乾杯！❷村からの記念品として、水を包んで運べるほどの超撥水加工が施された防災風呂敷「福つなぎ」を贈りました。

令和8年度 飯舘村敬老会

立村70周年の節目の敬老会
困難な時期も乗り越えふるさとを育んできた敬老者の皆さんに敬意と感謝をお伝えしました



『70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い』の第1部で『令和8年度飯舘村敬老会』を催し、ふるさとを育み支えてきた敬老者の皆さんに感謝を伝えました。

敬老会では、飯舘村社会福祉協議会、飯舘村婦人会、民生児童委員連絡協議会などの協力のもと、心を込めて敬老者をお祝いしました。村からはお祝い金を贈呈しました（下の写真／代表・高橋悦子さん／関根・松塚）。また、飯舘ライオンズクラブからは祝い酒が贈られました。

鴫原良友さん（長泥）が謝辞を述べ、ふるさと長泥での取り組みに触れながら、「皆の力を合わせ、大切に培ってきた村を、これからも興していきます」と決意を述べました。







までいの里のこども園・いいたて希望の里学園の子ども達がダンスと歌で敬老者を祝福し、飯舘村の70周年にもお祝いのメッセージを届けました。

70年の飯舘村あなたが選ぶニュースベスト10

第２部は記念アトラクション！

８月から９月にかけて募集した投票を元に、70年間の10大ニュースを決定。イベントの中で発表し、会場の皆さんと70年間のできごとを振り返りました。



第１位　平成23年　東日本大震災と全村避難
原発事故の影響で計画的避難区域に指定され全村避難に。



第２位　昭和31年　飯舘村が誕生
飯曽村と大舘村が合併し飯舘村が誕生しました。

第３位　令和７年　ハシドラッグ飯舘店が開店
村で初めてのドラッグストアがオープンしました。



第４位　昭和36年　草野地区で大火
120棟を焼失、罹災者が244人にのぼる大規模な火災でした。

第５位　平成29年　道の駅がオープン！
復興拠点エリアに「いいたて村の道の駅までい館」がオープン。

第６位　令和８年　立村70周年
飯舘村は令和８年９月30日に村制施行70周年を迎えました。



第７位　平成13年　ふくしま駅伝10連覇！
平成４年の村の部初優勝から連覇を重ねついに10連覇を達成しました。

第８位　平成30年　八木沢トンネル開通
村と南相馬市をつなぐ主要道路に全長330メートルのトンネルが完成。

第９位　平成29年　19行政区で避難指示解除
全村避難から６年。帰還困難区域を除く19行政区で避難指示が解除されました。



第10位　平成元年　第１回若妻の翼
19人の若妻がヨーロッパへ。全国の注目を集めたユニークな事業でした。

１位入賞の賞品は
宿泊体験館きこりのペア宿泊券＋特産品詰め合わせ





応募総数290票
第１位の正答数は８問でした

見事第１位に輝いたのは木幡兼治さん（伊丹沢）でした。投票は、70年間に起きたできごとを振り返るよい機会になったそう。「村の職員として勤務していた頃のできごともあり、懐かしい気持ちになりました。ベスト10にランクインしたできごともランク外のできごとも、人それぞれに大きなニュースだったのではないでしょうか」。

記念制作した映像を上映

村に残るアーカイブ映像や記録写真に、新たに撮影した動画も加えて制作した映像を上映。70年間の歩みを皆でたどりました。



コロッケさんのスペシャルステージ！

ものまねタレントのコロッケさんが、70周年のお祝いに駆けつけてくれました。ものまねのバリエーションの豊富さはもとより、見事な歌唱、磨き上げられたものまね芸が、会場を圧倒。さらにはあっと驚く演出や、ノンストップの話芸で、会場を笑いでいっぱいにしました。

そして、子どもからお年寄りまでに心を配り、やさしく言葉をかけるコロッケさん。飯舘村のこれまでとこれからに、たくさんのエールを送ってくれました。









熱く楽しく、ハートフルなステージをありがとうございました。全村避難の避難指示が解除される直前、平成29年の新春に続く村のステージでした。

飲食ブースでも交流が広がりました

11事業者の協力で、会場前に飲食店のブースが並びました。飯舘村赤十字奉仕団は熱々の豚汁を用意。













70周年おめでとう！

参加者の皆さんに記念品として、７次総のロゴマークが入った立村70周年記念のタンブラーをお渡ししました。

いいたてっ子発表会２０２６

赤蜻蛉祭

（いいたてっ子）

～想いをカタチに！希望の力を未来へつなごう～

積み重ねてきた学びや想いを未来につなごうと、一人ひとりが全力で取り組んだ感動いっぱいの発表会でした。



前期課程３・４・５・６年生
「いいたて元気太鼓」

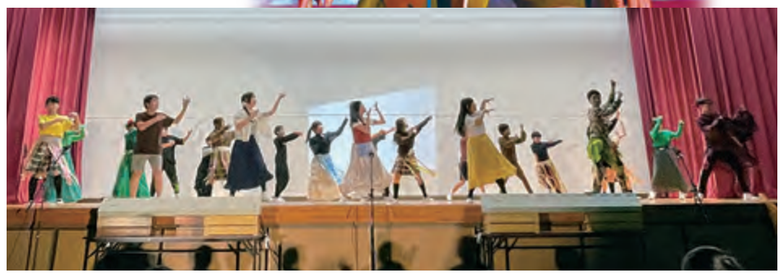


前期課程４・５・６年生
「モアナと伝説の海」

本格的な舞台に、会場の全員が引き込まれました。台詞や表情、身体表現に至るまで、一人ひとりの演技が、物語の世界を豊かに彩りました。















前期課程１・２・３年生
「ももたろう～やってみよう！～」

昔話の「桃太郎」を舞台に、「やってみよう」という挑戦の気持ちを持つ大切さを表現。劇中で「いいたて学」の学びも発表しました。また、元気いっぱいのダンスはとてもかっこよかったです。



スタンプラリーのポスター、パンフレット、スタンプをデザイン。３か所を巡るとガチャガチャで素敵な景品がもらえます。

後期課程７・８・９年生
「いいたて学」

７年生は村の歴史・自然・食・復興などについて調べたことをそれぞれの表現で発表。８年生は職場体験を通して知った村の魅力をクイズ形式で発表。９年生は幅広い人に村を伝えるスタンプラリーの企画について、教室での様子を再現しながら発表しました。









英検優秀団体賞・奨励賞

いいたて希望の里学園が、日本英語検定協会から表彰を受けました。受検者数などの部門で上位の団体に贈られる「優秀団体賞」と、年3回すべての検定を実施した団体に贈られる「奨励賞」の受賞です。後期課程の全生徒が英検に挑戦するなど、学園の取り組みが高く評価されました。

生徒を代表して大島有実莉さん（9年生）が、10月13日に飯舘村教育委員会を訪問し、学園の受賞を報告しました。報告では、受検に向けた勉強法や、実際の受検で感じたことなども伝えていました。



右から、増田校長、飯塚先生、大島さん、髙橋教育長。先生方の熱意あるご指導の賜物でもあります。

「わくわくどきどき合宿通学」

学園の4～6年生・15人が、9月27日から4泊5日で、「わくわくどきどき合宿通学」に挑戦しました。宿泊場所は、「農業研修館きらり」です。合宿中には、髙野靖夫さん（前田・八和木）のハウスで農産物の収穫体験、高梨光一先生を招いての星空観察教室、先生方とのバーベキュー、「宿泊体験館きこり」調理員の佐藤雄紀さんによるテーブルマナー教室などを、仲間と共に体験しました。













までいの里のこども園　笑顔いっぱい「運動発表会」

までいの里のこども園が、9月26日に運動発表会を行いました。園児は、各組ごとに工夫を凝らした種目に挑戦し、日頃の活動で培った力を発揮しました。また、保護者が参加する競技もあり、親子で一緒に体を動かし楽しい時間を過ごしました。









いいたて希望の里学園　寄贈の大凧 飯舘の空へ

CRSスポーツ工業株式会社から、いいたて希望の里学園に大凧が寄贈され、9月28日に、いいたてスポーツ公園で、凧あげが行われました。同社による大凧の寄贈は昨年に続き2回目。大凧には、前期課程の児童がイイタネちゃんを大きく描いています。この日は風が弱く、凧をあげるのが難しい状況でしたが、何度も挑戦してついに空高く舞い上がると、児童から歓声がわき起こりました。

同社の佐藤充代表取締役社長が、「夢や希望が大凧と共に空に上がり、村の皆さんが元気になれるよう願っている」と寄贈に込めた思いを伝えました。





あいの沢で園外保育

10月7日、までいの里のこども園の3～5歳児が園外保育で、「村民の森あいの沢」に出かけました。

秋晴れの青空に恵まれ、子ども達は、ドングリやマツボックリを拾ったり、「あいの浮橋」周辺を散策したりして、”秋”を体感。落ち葉を使った製作も楽しみました。そして何より、お家の方が作ってくれたお弁当とおやつが楽しみだったよう。自然の中でたくさん遊んで、そのおいしさは格別だったことでしょう。







実りの秋を実感!「いもほり」頑張りました

10月16日、までいの里のこども園の3～5歳児が、園の畑でサツマイモを収穫しました。

子ども達は、春に植えた苗が、見違える大きさに成長したことに驚き、喜びながら、長いツルをひっぱり、手で土をかいて、サツマイモを掘り出しました。今年の天候のせいでしょうか、この日の収穫量は、例年の3分の1程でしたが、子ども達は頑張りました。収穫したサツマイモは、今後園で調理して、秋の味覚を楽しむ予定です。



いいたてっ子秋まつり

いいたて希望の里学園とまでいの里のこども園のPTAを中心とした秋まつり実行委員会が、10月11日に学園にて、「いいたてっ子秋まつり」を開催しました。会場には、輪投げやスーパーボールすくい、射的など、縁日を模したさまざまな遊びのブースが並びました。子ども達が保護者と一緒に会場を巡り、さまざまなアトラクションを親子で楽しんだ他、参加者同士も交流しました。数多くの村内事業所が協賛したビンゴ大会も大いに盛り上がり、子どもを中心に仲間と過ごすひとときを、会場が一体となって楽しんでいました。











こども園に遊びに来てください

未就園児のお子さんとその保護者の皆さんを対象に、園舎開放を行います。こども園の様子を見たり、遊具で遊んだりして楽しんでください。

日　時　１２月４日（金）午前９時から１０時　※受け付けは午前９時まで

場　所　までいの里のこども園　（伊丹沢字山田380）

持ち物　飲み物 等

申し込み　１１月２７日（金）まで下記こども園まで電話でお申し込みください。

問 までいの里のこども園 ☎0244-42-0229

令和８年度「全国学力・学習状況調査」の結果から

令和８年４月に全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。今年度は６年生２教科（国語・算数）、９年生３教科（国語・数学・英語）の教科調査と質問調査（学習・生活状況に関する質問）を実施しました。

飯舘村教育委員会では、調査結果から子ども達の良さや課題を把握し、継続的な検証改善サイクルを確立しながら確かな学力を育むことを目指していきます。

福島県の傾向



- 小・中学校国語は全国平均をやや下回っている。小学校算数と中学校数学においても全国平均をやや下回っている。
- 質問紙調査から「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答える児童生徒は全国平均を上回っている。
- 全国平均と比べて、情報収集のためのＩＣＴ活用から、課題解決のためのＩＣＴ活用につなげていくことに課題がある。

飯舘村の傾向



- 前期課程（小学校）国語、算数ともに全国平均を下回っている。後期課程（中学校）国語は全国平均を下まわっているが、数学・英語は全国平均とほぼ同程度である。
- 質問紙調査から「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」と答える児童生徒は全国平均及び県平均を上回っている。
- 授業におけるＩＣＴ機器の活用頻度は全国や県平均に比べて極めて高い。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）家庭で勉強する時間について、後期課程（中学校）は全国平均と同程度であるが、前期課程（小学校）は下回っており、家庭学習の定着に課題が見られる。



各教科の結果と質問紙調査との関連を分析して、正答率の高い傾向にある児童生徒の回答

生活に関わること	学習に関わること
● 先生は、あなたのよいところを認めてくれる。 ● 学校に行くのは楽しい。 ● あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、お互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。	● 自分と違う意見について考えるのは楽しい。 ● あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。 ● 学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる。 ● 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる。

学力向上に向けた今後の取り組みおよび保護者の方へのお願い

学校での取り組み



- 飯舘村教育委員会版「令和８年度　学力向上推進プラン」の飯舘型授業スタイルを基に学習の全過程で児童生徒の活動を認め、称賛しながら、一人ひとりの姿を見取り、支援していきます。
- 少人数教育のメリットをいかした指導を継続していきます。さらに、福島県教育委員会から出された「学びの変革推進プラン」に基づいて、児童生徒が主体的で対話的な学びを進め、「学び出す」「学び合う」「学び取る」の授業の展開を進めていきます。
- ＩＣＴ機器を積極的に活用し、協働的な学びや思考力・判断力・表現力の向上に役立たせてきました。引き続き活用しながら個別最適な学びにもつなげていきます。
- 思考力、判断力、表現力の向上のために、授業では児童生徒たちの「話すこと・聞くこと」の充実を図り、自分の考えを説明したり、文章を書いたりする機会を増やしていきます。

家庭での取り組み



- 毎日の生活リズム（起床、就寝、食事の時間）を守らせましょう。
- アウトメディアチャレンジを基にゲームやスマートフォンの使い方を親子で決めましょう。
- 読書の習慣をつけさせましょう。
- 「家庭学習の手引き」を参考に自主学習ノートを使った家庭学習を習慣化させましょう。

問 飯舘村教育委員会☎0244-42-1631

飯舘牛復活に向けての試食会

10月16日、交流センター「ふれ愛館」のキッチンスタジオで、『飯舘牛復活に向けての試食会』を開催しました。調理は、「日本料理 美と和 aki ta -K- 仙台」（宮城県仙台市）の秋田克志呂シェフ、「Restaurant Cashe -Cashe」（宮城県岩沼市）の猪岡暖子シェフが担当。「肉のゆーとぴあ」の山田豊さん（関根・松塚）が精選した「真牛」と「経産牛」を食べ比べ、双方の魅力を講評して、ブランド化に向けた機運を高めました。

村は11月14日にも、村民の森あいの沢にて『飯舘牛リ・スタートデー』を開催し、バーベキュー（事前申込制）などを通してさらにこの機運を加速させたいと考えています。





















青田豊実さんが「里山のつぶ」を「新嘗祭」に献穀

皇居で行われる宮中祭祀「新嘗祭（にいなめさい）」に献上する献穀米の生産者に選ばれた青田豊実さん（前田）のほ場で、10月13日に「献穀米刈取式」が行われました。式では、青田さんの他、杉岡村長、本多巌相双農林事務所長、三津間一八ＪＡふくしま未来代表理事組合長、西幸夫ＪＡふくしま未来常務理事が稲刈りを行いました。飯舘村から献穀米の生産者が選ばれるのは、昭和43年以来58年ぶりとなります。青田さんは「日照不足などの問題もありましたが、地域の理解と励ましが支えになりました。皆様に披露することができうれしいです」と喜びを語りました。

献穀米は無事に宮中に届けられ、青田さんは10月21日に皇居に招かれ、天皇陛下に謁見する栄に浴しました。



天皇陛下より御紋付磁器杯（左下）と菊焼残月（右）が下賜されました。

長泥地区で稲刈りが行われました

実りの秋を迎え、村内各所で稲刈りが行われました。

昨年から販売を目的とした米づくりが再開した長泥地区では、10月８日に、庄司喜一さんのほ場で、2年目の稲刈りが行われました。昨年に続き、地区の皆さんの協力で稲刈りが進められ、収穫された新米の一部は、同18日に開催された行政区主催の『長泥収穫祭』で出席者に振る舞われました。

また、環境省の環境再生事業により造成された、試験栽培・実証栽培の農地でも、同日、稲刈りが行われました。村と地区の営農組合が協力して稲の栽培を進めてきた農地です。

これまでの結果と合わせて、来年度に、全量全袋検査に基づき流通できることを目指しています。



第３工区の稲刈り



庄司喜一さんのほ場の稲刈り

空から百景

秋晴れの比曽

少しずつ涼しくなり、秋が深まってきました。10月下旬の比曽地区。稲刈りが終わりに近づいていました。比曽地区は、村内でも標高が高く、平らに開けた土地を、山々の稜線が囲んでいます。ほのかに赤く色づいた山々が、秋晴れの空にくっきりと映えていました。



10月25日、交流センター「ふれ愛館」を会場に、いいたて村文化祭、いいたて秋まつり、福祉チャリティー祭りが同時開催されました。

いいたて村文化祭







総合文化展では、写真作品や文化サークルの作品が数多く展示され、25日には入賞者の表彰式も行われました。また、「飯舘の暮らしと民具」と題し、昔の農機具や農作業風景の写真を展示。震災後初めて多目的集会所も活用して展示を行いました。会場では、いいたて愚真会の蕎麦や飯舘村婦人会のだんご汁も販売されました。総合文化展、特別展示、福祉チャリティー祭りを巡って豪華賞品が当たるスタンプラリーも行われました。









特別展示「飯舘の暮らしと民具」



いいたて秋まつり

村内の事業所や商工会、大学生など、さまざまな団体が出店し、飯舘村の魅力あふれる商品を販売。会場は多くの来場者でにぎわいました。また、交流のある埼玉県春日部市からも出店がありました。ステージでは、村内のサークルや団体による発表やバンド演奏が行われた他、じゃんけん大会、いいたてウルトラクイズ、ビンゴ大会など数多くの催しが行われ盛り上がりました。









福祉チャリティー祭り

社会福祉協議会を中心に、民生児童委員協議会、更生保護女性会、赤十字奉仕団、食生活改善推進協議会、飯舘ライオンズクラブ、株式会社ネクセライズが出展しました。会場ではバザーが開かれた他、子ども達が楽しめる縁日風の催しも行われました。幅広い世代が買い物や遊びを楽しみながら、地域の団体の活動に触れる機会となり、福祉や地域のつながりが感じられる催しとなりました。







スポーツの秋！大会や教室でいきいきと活動する皆さんの様子を紹介します。

市町村対抗ソフトボール大会

『第13回市町村対抗福島県ソフトボール大会』に、飯舘村チームが出場しました。

1回戦は10月4日、相馬光陽ソフトボール場（相馬市）で行われました。対戦相手は塙町チーム。飯舘村チームも幾度となく出塁し、得点を重ねましたが、試合は7対14で惜しくも敗退しました。

グラウンドに笑顔があふれるチームワークが輝きました。全力プレー、ありがとうございました！



第３回からだ作り教室

10月3日に、宿泊体験館きこりで、『第3回からだ作り教室』を開催しました。

８人の参加者が、交流を深めながら、インストラクターの佐藤こゆるさんの指導で、バランスボールを使った運動や日頃の生活にも取り入れられる筋トレ、ストレッチなどを体験しました。

次回第4回の開催は、12月5日を予定しています。※P30の情報をご覧ください。



キッズサッカー教室

10月17日、いいたてスポーツ公園で、小中学生を対象に『キッズサッカー教室』を開催しました。講師はJFAコーチライセンス取得の大内亮さん（八木沢・芦原）で、大内さんが代表を務めるフットサルチーム「I.B.C（いいたてベコクラブ）」のメンバーも協力しました。村外の小学生も参加し、サーキットトレーニングやボールを動かす基礎練習、模擬試合などを体験。サッカーの楽しさを満喫していました。



第３回村民スポーツ大会

10月12日、いいたてパークゴルフ場で、行政区対抗の『第３回村民スポーツ大会』を開催。29チーム・123人が参加し、熱戦を繰り広げました。

【団体】優勝：二枚橋・須萱Aチーム／２位：宮内Aチーム／３位：前田・八和木Aチーム

【男子個人】優勝：高橋則雄さん（二枚橋・須萱）／２位：北山信政さん（飯樋町）／３位：佐野幸正さん（前田・八和木）

【女子個人】優勝：北原澄子さん（宮内）／２位：高橋ヤス子さん（二枚橋・須萱）／３位：齋藤京子さん（深谷）



金婚おめでとうございます

めでたく金婚の節目を迎えられたご夫婦に、杉岡村長が褒状と記念品をお届けし、対話を通して、これまでの道のりや心温まるエピソード、円満の秘訣などを教えていただきました。ここでは６組のご夫婦のお話を紹介します。

※掲載は順不同。写真は一部ご提供によるものです。



西川義和さん・由美子さん（伊丹沢）

花や自然が好きな２人は一緒に花を見に出かけたり全国各地を旅行したりと楽しみを共有してきました。大切にしているのは、「思っていることをきちんと言葉にすること」です。



杉岡茂さん・悦子さん（小宮）

仲良しの秘訣は「何をやるにも一緒」であること。結婚後も共通の趣味を楽しみ、同じ時間を共有してきました。ご提供の写真からも仲睦まじい様子がうかがえます。



手渡孝行さん・由美子さん（前田・八和木）

50年間、夫婦として歩んできた２人が大切にしているのは、けんかをしてもすぐに仲直りをすること。「率直な思いを伝え合うことが仲よく暮らし続ける秘訣」だそうです。



佐藤俊雄さん・ミイ子さん（草野）

結婚後の50年間は「あっという間だった」と話す２人。俊雄さん曰く、“婦唱夫随”で仲良く過ごした50年間だったとのこと。周囲の人との関わりも、夫婦で大切にしています。



髙橋文男さん・宮子さん（関根・松塚）

仲良しの秘訣は「お互い様」の気持ちを大切に、思いやりを持って譲り合うこと。２人は毎年、結婚記念日に旅行に出かけていて、50周年を迎えた今回は沖縄県を訪れたそうです。



渡部功さん・友子さん（草野）

「互いに健康でいられることがうれしい」と話す２人。仲良しの秘訣は、お互いに歩幅を合わせて一緒に歩んでいくこと。そして「尊敬・いたわり・感謝」の気持ちを忘れないこと。

笹川環境大臣、細野復興大臣、宮本原災現地本部長が相次いで村を訪れました

9月17日に発足した第2次高市改造内閣に入閣した大臣が相次いで来村し、村の幹部と意見を交わしました。

9月30日に笹川博義環境大臣、10月1日に細野豪志復興大臣が来村しました。村は、それぞれに要望書を提出。環境再生事業への理解醸成の推進や、帰還困難区域の再生・発展に向けた支援、復興財源の確保、雇用や生業の創出に向けた支援などを要望しました。また、村の現状や、将来に向けた取り組みについて説明し、意見を交わしました。

一方、10月19日には宮本周司原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）が来村。杉岡村長と村役場で会談し意見を交わした他、長泥地区を視察しました。



９月30日に来庁した笹川博義環境大臣（写真中央）。



10月19日に来庁した宮本周司本部長（写真右）。



10月１日に来庁した細野豪志復興大臣（写真右）。

川俣町と包括連携協定を締結 地域の課題解決に協働します

村は川俣町と包括連携に関する協定を締結しました。締結式は、9月29日、川俣町の「オリナスかわまた」で行われ、藤原一二川俣町長、杉岡村長が、署名した協定書を取り交わしました。

この協定に基づき、村と川俣町は、共通の地域課題の解決に向け、移住・定住の促進や教育環境の充実などに連携して取り組みます。杉岡村長は、震災以降の多大な支援に感謝を表し、「住民と共に培ってきた絆を深めていきたい。共に栄え発展できるよう連携したい」と期待を述べました。



地域として課題解決やにぎわい創出に取り組みます。笑顔で握手を交わす藤原町長（左）と杉岡村長。

ロゴマーク披露式 「10年後の手紙」発送式



村民の皆さんが10年後の自分や大切な人に宛てた手紙を、70周年を迎えた当日に発送しました。

立村70周年を迎えた9月30日に合わせて、『美わしく 清らかな村 いいたて』ロゴマーク披露式と『10年後の手紙』発送式を、役場にて執り行いました。

式では、公募で決定したロゴマークのデザイン（右のロゴマーク）を発表。続いて、立村60周年の際に寄せられた「10年後の手紙」1,043通を、杉岡村長が郵便局員に引き渡し、発送しました。

美わしく
清らかな村
いいたて

日美連ビューティフルデーに 清掃活動を実施



村主催の作業に参加した皆さん。この他、深谷・臼石・草野・宮内行政区が独自に清掃活動を実施しました。

「日本で最も美しい村」連合では、10月4日を「美しい村の日」と定め、前後1週間程度の期間に、加盟町村が一斉に清掃活動を行う「ビューティフルデー」の取り組みを推進しています。村は希望者を募り、10月6日に、交流センター「ふれ愛館」周辺のごみ拾いを実施しました。また、4行政区が、地域の草刈りや清掃活動でこの取り組みに参加。記念に、連合のロゴマークが描かれた帽子を配付しました。

日頃から環境美化を心掛け、美しい村の景観を守り、次の世代へつないでいきましょう。

「日本で最も美しい村」連合 合同物産展バスツアー



大玉村を訪れ「美しい村」の魅力を再確認。写真は「森の民話茶屋」。民話ライブも楽しみました。

「日本で最も美しい村」連合に加盟する県内4町村の合同物産展が、10月18日に、「大玉村ふれあい広場」にて開催されました。大玉村の「おおたまうまいもの祭り」との同時開催で、各町村が自慢の特産品やご当地グルメを販売しました。村はこの機会にバスツアーを企画し、村民の皆さんと一緒に会場を訪れ、連合加盟町村の魅力を味わいました。



「希望の聖地・飯舘」フォーラム

10月3日、『未来が始まる東北 TOHOKU WAY「生命繋ぐ 希望の聖地・飯舘」フォーラム』（同実行委員会主催）が交流センター「ふれ愛館」で開催され、講演の他、村で活躍する村民や事業者によるパネルディスカッションが行われました。また、立村70周年を記念して飯舘村讃歌「いのち つなぐ」が村に寄贈され、その合唱も行われました。参加者は「村の自然や魅力を改めて感じた」「地域のつながりを一層大切にしたい」と感想を寄せていました。



立村70周年を彩る生花の寄贈

飯舘村職員の退職者でつくる『睦会（むつみかい）』から、立村70周年を祝うフラワースタンドの寄贈がありました。9月29日、オレンジとピンクを貴重にした華やかなフラワースタンドが玄関ホールに飾られました。三瓶政美会長（大久保・外内）、髙橋世津子副会長（草野）、阿部久夫副会長（宮内）が来庁し、「震災という困難を乗り越えて今ここに村があります。村民の皆さんにも見ていただき70周年の節目を祝いたい」と思いを述べました。



村と只見の米を使った米焼酎

只見町を拠点とする酒造会社「合同会社ねっか」が、飯舘村振興公社が生産した「里山のつぶ」と只見町産の米を使用した米焼酎「MADEI de nekka」を製造。完成品を携え、10月7日、飯舘村を訪問しました。

同社は「地域の田園風景を守り、次世代につないでいく」ことを理念としており、代表の脇坂斉弘さんは「飯舘村の田園が今後も続いていくためのお手伝いができれば」と思いを語りました。

「MADEI de nekka」は、今後、宿泊体験館きこりで販売されます。初年の今年は生産量が限られているため、100本限定の販売となります。





飯樋町行政区防災訓練

10月11日、飯舘村地域防災センターを会場に、飯樋町行政区主催の防災訓練が行われました。今年で3回目の開催です。今回は、起震車による地震体験や水消火器を使用した初期消火訓練、地震対策についての講話などが行われました。

当日は、33人の住民に加え、地区の消防団も参加。地震体験では、震度ごとの揺れを体験し、地震の怖さや備えの大切さを学びました。また、防災食の試食を兼ねた昼食会が開かれ、住民同士が交流し、つながりを深めました。









第７回までいなマルシェ

９月26日、いいたて村の道の駅までい館で、生産者の会主催の「第7回までいなマルシェ」が開催されました。

会場には村内産の農産物や加工品がずらりと並んだ他、ハンドメイド雑貨の販売やキッチンカーの出店も。シンガーソングライターやバンドによるステージイベントも行われ、大勢の人でにぎわいました。また、スタンプラリーも実施され、家族連れなどがブースを巡って、交流も楽しんでいました。



秋の全国交通安全運動



９月21日から30日までの10日間、「秋の全国交通安全運動」が実施されました。この運動は、交通安全思想の普及や交通ルールの遵守を図り、交通事故のない社会を目指すもので、9月30日は「交通事故死ゼロを目指す日」とされています。村ではこの期間に、飯舘村交通指導隊（渡邊芳孝隊長／飯樋町）が立哨活動を行い、交通安全を呼びかけました。私達も一人ひとりが交通ルールやマナーを守り、交通事故防止を心がけましょう。

令和９年度採用飯舘村職員〈 ２次募集 〉のお知らせ

令和9年度採用飯舘村職員（大学卒程度）の採用候補者試験を次により行います。詳しくは、村ホームページをご覧ください。※右のQRコードからもご覧いただけます。

採用職種	一般事務（大学卒程度）
採用人数	若干名
受験資格	昭和61年４月２日以降に生まれた者（学歴は問いません）
第１次試験の内容	教養試験、適正検査
第２次試験の内容	小論文、面接等
第１次試験	試験日　11月29日（日） 受　付　午前９時～９時30分 教　養　午前10時～正午 適　性　試験終了後
試験場所	飯舘村役場（福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢580番地１）

発表…12月下旬に村役場前掲示板に合格者受験番号を掲示する他、合否について通知します。
※第2次試験の詳細は第1次試験合格者へ通知します。(12月下旬～1月上旬開催予定)

申込用紙交付及び提出先…飯舘村役場総務課総務係
〒960-1892 福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢580番地1

受付期間…11月5日(木)～11月18日(水)　※郵送による申し込みも11月18日(水)必着

問 総務課総務係 ☎0244-42-1611

令和８年10月25日執行 第23回福島県知事選挙　村内の選挙結果について

10月25日に投開票が行われた第23回福島県知事選挙について、村内における選挙結果をお知らせします。今回は、期日前投票と当日投票を合わせた投票率が48.23%で、前回令和4年10月の福島県知事選挙の村内投票率を3.58ポイント上回りました。

- 当日有権者数　3,823人（男1,991人・女1,832人）
- 投票者数　1,844人（男946人・898人）
- 投票率　48.23%（男47.51%・女49.02%）



各候補者の飯舘村での得票数

※候補者名は届出順

金山　屯……3票
内堀雅雄……1,653票
小山田友子……65票
塚越栄光……96票
遠藤雄大……12票
藤本昭一……4票
長谷沼邦彦……4票

※無効票７票

問 飯舘村選挙管理委員会
☎0244-42-1611（総務課内）

佐須の農地で国境を越えた連携

10月9日、持続可能な農業について学ぶために来日したエジプトのニューバレー大学農学部と国立リモートセンシング宇宙科学機関の研究者が、菅野宗夫さん（佐須）の水田で稲刈りを体験しました。この水田では、今年5月にアメリカのケネソー州立大学の学生が酒米の田植えを行っており、アメリカの学生が植えた稲をエジプトの研究者が収穫するという、国際連携が実現しました。菅野さんは、国内外から多くの人々を受け入れ、農業体験を通じて飯舘村の農業の魅力を伝え続けています。



道の駅で犯罪防止の啓発活動

10月14日、南相馬地区防犯指導隊、南相馬地区少年警察ボランティア会、南相馬警察署などが参加し、犯罪防止に向けた啓発活動として、「防犯キャンペーン」を実施しました。キャンペーンでは、飯舘村防犯指導隊の渡邊富士男隊長（飯樋町）が、二枚橋郵便局とハシドラッグ飯舘店に、犯罪防止に関するチラシの配布を依頼した他、いいたて村の道の駅までい館の来館者に直接チラシを配布し防犯意識の向上を呼びかけました。



ながどろフラワーコンテスト

立村70周年記念協賛行事として、「ながどろひろば」（花の里ながどろ環境再生情報ひろば）主催の「ながどろフラワーコンテスト」が開催されました。

10月3日に、15組・46人の参加者が寄せ植えを制作。18日間の展示期間に、160人に上る来場者が好きな作品に投票しました。10月23日の表彰式では受賞者が、寄せ植えに込めたメッセージや「楽しく参加できた」といった感想、長泥への想いなどを述べ、一同が和やかに交流しました。



名倉良雄福島環境局長、杉岡村長、髙橋正弘長泥区長が出席し各賞を授与しました。

10月3日の寄せ植え制作の様子。





最優秀賞を受賞した「長泥友の会」の皆さん。



第4回からだ作り教室

年内最後の「からだ作り教室（バランスボールエクササイズ）」を開催します。詳細はチラシをご覧ください。

日　時　12月5日(土)
午前10時～11時30分
※受付午前9時30分

会　場　交流センター「ふれ愛館」ホール

参加費　1000円

申し込み締め切り　11月30日(月)定員20名
※定員になり次第〆切

■ボールはこちらで用意します。ヨガマットをお持ちの方はご持参ください。

■次回開催は2月(日付未定)の予定です。

問 いいたてスポーツ公園
☎0244(42)0152
(担当：髙橋)
FAX 0244(42)1300

医療機関での健診について

今年度、村の健診を受けていない方に、医療機関での健診のご案内をしています。詳しくは5月に郵送している『令和8年度飯舘村健康診査・がん検診のご案内』をご覧ください。

案内をなくされた方、予約の方法が分からない方などお気軽にご相談ください。

実施地区　相双方部(相馬市、南相馬市、新地町)
伊達方部(伊達市、川俣町、国見町、桑折町)

実施期間　令和8年12月28日(月)まで

受診方法
①5月に郵送された「総合健康診査のお知らせ」の医療機関一覧から希望する医療機関を選ぶ。
＊福島市内の医療機関は実施期間が終了しておりますので、ご注意ください。
②ご自身で希望の医療機関に電話で予約をする。

受診に必要なもの
①施設検診受診シール(5月に郵送で届いた赤茶色の用紙)
②マイナンバーカードまたは資格確認証
＊健診料金の自己負担はありません。

問 健康福祉課健康係
☎0244(42)1637

粗大ごみ受け入れについて

左記の通り、家庭にある粗大ごみの受け入れを行います。事前に飯舘村商工会にて粗大ごみの搬入券を購入し(販売は平日午前9時～午後4時)、搬入日に持参してください。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

日　時　11月29日(日)　午前9時～正午

場　所　飯舘クリアセンター
☎0244(42)1588

料　金　乗用車(軽・普通)500円
小型貨物車1000円
※小型貨物車は軽トラックのみ。

搬入できないもの

自動車部品、廃タイヤ、廃材等産業廃棄物にあたるもの、農業用品、可燃・不燃のごみ袋に入るもの、事業所からのごみ、家電4品目(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等)、パソコン・携帯電話等の小型電子機器　等
※搬入できないごみについては、お持ち帰りいただきます。
※家屋の解体で出たごみ(畳など)は搬入できません。
ご不明点はお問い合わせください。

問 住民課住民係
☎0244(42)1619

人権擁護委員による〈特設人権相談〉について

人権擁護委員が左記により「特設人権相談」を行います。相談は無料で秘密は守られます。お気軽にご相談ください。

日　時　12月4日(金)
午前10時～午後3時

会　場　交流センター「ふれ愛館」
視聴覚室

問 住民課住民係
☎0244(42)1619

農業用用排水路等への転落事故防止について

農業用の用排水路等について、例年、積雪期において多数の事故が発生しています。冬場は積雪により水路と道路の境界が不明確になること等により、転落する危険が高まります。除雪作業等を行う際にはご注意いただくと共に、各家庭で子どもに転落事故防止の呼びかけを行う等、ご協力をお願いします。また、事故の危険がある箇所を見つけた場合は、村までご連絡ください。

問 建設課農業基盤再生係
☎0244(42)1610

食品等の放射性物質測定結果のお知らせ

令和8年9月1日から30日までに行った食品等の放射性物質の測定結果について、測定品目や採取地等の詳細な情報を、村のホームページに掲載しています。QRコードよりご確認ください。

村内の木を薪として使用しないでください

村内の木を薪として使用した場合、燃やした後の灰から高濃度の放射性物質が検出され、家庭ごみとして処分できなくなる恐れがあるため、使用しないでください。

問 産業振興課農政係
☎0244(42)1625

山の腐葉土及び焼却灰は使用しないでください

村内の未除染の山林から採取した腐葉土や、村内の木を燃やした後の灰には多くの放射性物質が含まれている可能性があります。これらを栽培土として使用した場合、作物から基準値を超える放射性物質が検出される恐れがあるため、使用しないでください。

問 産業振興課農政係
☎0244(42)1625

10月の村の動きと主なできごと

［9月追記］30日・笹川博義環境大臣　来村(村役場他)

1日・細野豪志復興大臣　来村(村役場他)
3日・第3回からだ作り教室(宿泊体験館きこり)
4日・市町村対抗福島県ソフトボール大会1回戦(相馬市・相馬光陽ソフトボール場)
・令和8年度飯舘村敬老会(いいたて希望の里学園体育館)
・70周年の歩みに感謝と喜びをともにする集い(いいたて希望の里学園体育館)
7日～9日・ゆずカフェ(いちばん館)
8日・福島ユナイテッドFCスポーツ教室(いいたてスポーツ公園)
10日～11日・ふくしまフェスタin有楽町駅前広場(東京都千代田区)
10日～11日・あぶくまロマンチック街道物産フェア(福島市・コラッセふくしま)
11日・いいたてっ子秋祭り(いいたて希望の里学園体育館)
12日・立村70周年記念村民スポーツ大会(いいたてパークゴルフ場)
16日・飯舘牛復活に向けての試食会(交流センター「ふれ愛館」)
17日・キッズサッカー教室(いいたてスポーツ公園)
17日～18日・LIVE AZUMA2026(福島市・あづま球場)
18日・「日本で最も美しい村」連合合同物産展バスツアー(大玉村)
・くらし&しごとフェア2026(東京都千代田区・東京交通会館)
19日・子宮がん・乳がん集団健診(いちばん館)
21日・農業委員会定例総会(村役場)
22日・令和8年度第2回介護保険運営協議会(交流センター「ふれ愛館」)
22日～28日・いいたて村文化祭総合文化展(交流センター「ふれ愛館」)
24日・第5回日本で最も美しい村まつり(東京都港区・東京ポートシティ竹芝)
25日・立村70周年記念第43回いいたて村文化祭(交流センター「ふれ愛館」)
・立村70周年記念いいたて秋まつり2026(交流センター「ふれ愛館」)
・北海道東北ブロック民俗芸能大会(郡山市・けんしん郡山文化センター)
・第23回福島県知事選挙　投開票(投票・村役場他／開票・いちばん館)
26日・定例教育委員会(村役場)
27日・30日・11月1日・2日・5日・6日・行政区ヒアリング(村役場)
29日・令和8年度第3回行政区長会議(交流センター「ふれ愛館」)
・空き家バンクサポーター任命式(いいたて移住サポートセンター)
31日・ウォーキング交流会(北塩原村・裏磐梯トレッキングコース)
・立村70周年記念「カワセミ水族館がやってきた!」(ふかや風の子広場)
31日～11月1日・つながるマルシェin代官山(東京都渋谷区)

飯舘村を形づくる個性豊かな20行政区を連載で紹介します

いいたて20行政区 vol.7
7区 大倉行政区

いにしえの万葉の歌に「真野の川」（真野川）が詠まれているように、大倉地区は、古くから人が暮らしていた歴史の深い地域です。松ヶ平地区では、後期旧石器時代、縄文時代、平安時代の遺跡が発掘されています。また、「お浜くだり」「葉山ごもり」など古くから伝わる行事を、震災で中断するまで継承してきた地域でもあります。

大倉地区は、真野川流域の谷あいにあります。ダム建設の適地であるとして、ダム計画が浮上する度、故郷が湖底に沈む計画に対して住民は強く反対しました。昭和45年の3度目の計画にも激しい反対運動が起こりましたが、その後「真野ダム対策同盟会」を組織して県と交渉を進めることとなり、昭和52年に協定書、55年に補償協定書に調印しました。昭和56年には水没移転者の離村式が行われ、人々は子ども達の歌「ダムに沈む大倉の里によせて」に涙し、別れを惜しんだと言います。

多目的ダム「真野ダム」は、平成3年に完成。周辺に体育館や橋が整備され、ダム湖は「はやま湖」と命名されました。湖畔には桜が植えられ、さまざまなイベントに活用されるようになり、「はやま湖」は、地域に愛される名所となっていきました。


はやま湖を活用したイベントの一つ、「森と湖まつり」。恒例のモーターボート湖上遊覧。（平成11年）


避難指示解除の年の夏には「はやま湖花火大会」を復活開催。多くの人に元気を与えました。（平成29年）


震災後初の「はやま湖まつり」。写真は「大倉の神楽」。（令和5年）


釣り人に人気のはやま湖。春には桜並木が縁取ります。（令和7年）

大倉行政区（7区）

区民数79人（令和8年10月1日現在／住基人口）

ダムに水没した場所は、川の両岸に田畑があり、未舗装の細い道をバスが通っていました。ダムの建設に伴い道路はよくなりましたが、地区外に移転する人も多く、戸数はぐっと減りました。しかし震災を経た現在も、地区の女性達による「こぶし会」などが一生懸命に活動していて、春のグラウンドゴルフ大会、夏の「はやま湖まつり」、行政区の秋まつりなどには、避難先に住む人も集まります。また、日頃から、グラウンドゴルフやバドミントンなどの活動も盛んで、農地保全の活動には地区の人が協力しています。一人ひとりが日々を楽しむことが大切だと思っています。この秋は研修旅行で宮城県を訪れ、震災からの復興の様子を皆で視察してきます。


佐藤一郎区長



いいたて今昔物語

村制施行70周年

さまざまな場所や暮らしの変化を見てみよう。

スポーツ公園の今と昔


昭和

飯樋町にあり広く親しまれていた村民グラウンド。写真は「飯舘村小学生スポーツ交歓会」のひとコマ。（昭和55年）


平成

センター地区に整備された村民グラウンドで。「第44回村民体育大会」。（平成19年）


平成

「いいたてスポーツ公園」のグランドオープン。女子マラソン元日本代表の増田明美さんと子ども達によるセレモニーの様子。（平成30年）


令和

「いいたてスポーツ公園」の夏の風物詩、「いいたてナイター駅伝」。レース前の夕暮れ。（令和8年）

行政区対抗で多彩な競技を楽しむ「村民体育大会」は、昭和38年に第1回大会が開催され（初回は2方部に分かれての開催）、以降東日本大震災発災の前年、平成22年の第47回大会まで、毎年開催されていました。昭和43年10月5日発行の「広報いいたて」には、その第6回大会がリニューアルした「村民グラウンド」で開催されたと書かれています。この昭和40年代には、さまざまなスポーツ連盟や体育協会が設立され、飯舘村はスポーツが盛んな村になっていました。その後、昭和末期にスタートしたセンター地区の開発で、「村民グラウンド」や「いいたて球場」が、現在の「いいたてスポーツ公園」の場所に新設されました。そして、震災による全村避難を経て、傷んだ施設を改修。避難指示解除の翌年、平成30年に、「いいたてスポーツ公園」がオープンしました。現在では村民の利用はもとより、広域から利用者が訪れ、各種スポーツの練習や試合、大会にも活用されています。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

多目的集会所を改修し活用を再開



交流センター「ふれ愛館」の東側に建つ「多目的集会所」。震災後は、被災地を支援するため全国から出向してきた「ウルトラ警察隊」の活動拠点として活用されました。その後改めて利用目的が検討されてきましたが、この程改修が完了し活用を再開しました。





「いいたて村文化祭」では民具の特別展示の会場になりました。今後は村の資料や図書、土器などの出土品、民具などを整理・収蔵する場所として活用していく計画です。

施設を見学をされたい方は、交流センターの職員にお申し出ください。

図書の貸し出しもご利用ください

問 交流センター「ふれ愛館」☎0244-42-0072

豊穣の喜びに包まれる
美わしく清らかな村いいたて

第48回 杉岡誠村長の 愛楽故郷味 あいらくふるさとみ



朝夕の冷え込みが増し、季節の深まりを一層感じられる飯舘村。実りの秋です。

10月4日には第一部に敬老会、第二部にはコロッケさんをお招きしての70周年記念イベントが開催され、会場は約６００人もの多くの村民の皆様の笑顔で溢れました。今日の村を築き、ふるさとを守り続けてこられた先輩方への感謝と、新たな節目を迎えられた喜びをともにすることができました。開催にご尽力いただいた全ての皆様に、心より御礼申し上げます。

そして、この記念すべき70周年の年に、もう一つ、大変喜ばしい出来事がありました。飯舘村内で丹精込めて育てられた「里山のつぶ」を、宮中で執り行われる新嘗祭に献穀するという、この上ない栄誉に浴したことです。村としては実に58年ぶりとなります。

新嘗祭は、天皇陛下御自らその年の収穫に感謝され、国家国民の安寧と繁栄を祈る古来からの大切な宮中祭祀と承っております。震災と原発事故によって、かつてない困難に直面した村でしたが、農家の皆様をはじめ、多くの方々が再生への希望を失うことなく、懸命なご努力を積み重ねてこられました。豊かに実ったお米を献穀することは、村の歴史の上でも大きな誇りとなるものであり、農業の再生に取り組んできた、これまでの歩みを象徴する、誠に感慨深い出来事です。この喜びを村民の皆様と分かち合えることを、大変嬉しく有り難く存じます。

10月は各地での出店や仙台市内での飯舘村フェア開催など、飯舘村の魅力と村産食材の可能性を広く発信することができた月間となりました。そして、宮城県や銀座のシェフの皆様、生産農家の皆様と「いいたての牛」の試食会などを重ねてきた結果、いよいよ来月から村民待望の「飯舘牛」ブランドの再始動が本格化します。

赤蜻祭ではいいたてっ子の成長に驚かされ、秋まつり等の村行事では村民の心根の優しさと元気のよさに顔がほころぶなど、村ならではの「豊穣の喜び」を堪能する月となりましたことに感謝いたします。

立村70周年は、これまでの歩みを振り返ると同時に、新たな未来へ向けた出発点でもあります。魅力溢れる飯舘村を皆様と築き上げるべく、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

■ ひとのうごき

誕生おめでとう　HAPPY BIRTHDAY!

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
本多 穂香（ほのか） ちゃん	晃祐さん 美香さん	伊丹沢
庄司 福七（ふくしち） くん	航 さん 美賀さん	深 谷

ひとのうごき　令和８年10月１日現在

人口	今月（前月比）
●男	2,168人（±０）
●女	2,066人（－４）
計	4,234人（－４）
世帯数	1,770戸（＋３）

9月1日～30日までの人口動態

転入　５人
転出　３人
出生　０人
死亡　６人
（住民基本台帳人口）

（9月16日から10月20日までに届け出のあったものを掲載）
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

おくやみ　ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	年齢	行政区
樋之口久子 さん	87	草野
森永ミツイ さん	78	前田・八和木
伊東拓美 さん	72	関沢
堀 光子 さん	78	臼石
岡部武重 さん	88	小宮
志賀正二 さん	98	小宮
北山ヨシ さん	72	飯樋町
菅野フクノ さん	95	比曽
只野由勝 さん	92	小宮
菅野清忠 さん	90	小宮
渡部清長 さん	95	草野

広域な出店で飯舘村の魅力を発信！　各地の秋のイベントに出展しました



あぶロマ物産フェア

10月10日・11日の２日間、コラッセふくしま（福島市）で、「あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会」が物産フェアを開催。里山の恵みを活かした逸品が並びました。



LIVE AZUMA 2026

10月17日・18日に県営あづま球場（福島市）で開催された音楽フェス「LIVE AZUMA 2026」。ドリンクや軽食などフェスに合わせたラインアップを用意し、飲食ブースに出展しました。



ふくしまフェスタ in 有楽町駅前広場

10月10日・11日に、東京都千代田区の有楽町駅前広場で行われた福島県主催のイベント。県と各市町村の職員、事業者が協力して、復興の現状や農産物・観光の魅力を発信しました。

皆さんが広報委員！ いいたて PHOTO（フォト） リレー

月ごとのテーマで写真を募集、エピソードと共に紹介します。



テーマは広がる田園風景
～山の奥まで見える視点～

撮影者
佐藤祐太 さん（伊丹沢）



「自分が所有しているドローンで、昨年の７月に道の駅付近を撮影した写真です」と話すのは、いいたて村の道の駅までい館で働く佐藤祐太さんです。「天気のよい日や、道の駅でイベントを行う際などに、時々ドローンを飛ばして写真を撮っています」。この写真は、「広がる田園風景や、奥まで見渡せる山々の景色がきれいだ」と感じて撮影をしたそうです。「震災後、少しずつ農業が再開され、田園風景が見られるようになってきました。完全に元に戻った訳ではありませんが、この写真を通して、村の農業が活発になってきたことや、村で農業に取り組む人達の努力が伝わればうれしいです」と話していました。

12月号
11/16締切
例えば…「紅葉」「焼き芋」「冬のはじまり」「七五三」をテーマに。

1月号
12/14締切
例えば…「クリスマス」「年末」「雪景色」「イルミネーション」をテーマに。

■ 写真様式　データ、現物を問いません。　■ 写真枚数　１掲載につき１～２枚程度。
■ 提出方法　電話で写真の詳細をお聞きした後、相談させていただきます。
■ 選　　考　応募多数の場合は選考します。　■ 報　　償　１掲載につき1,500円。

問 村づくり推進課企画定住係（広報担当：巻野）☎0244-42-1613

広報いいたて 令和8年11月号 No.753（毎月5日発行）●発行 飯舘村 ●編集 飯舘村広報委員会 飯舘村役場 〒960-1892 福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢580番地1 電話：0244-42-1611（代表） FAX：0244-42-1601

飯舘産のウルシの木で「漆掻き」　7年越しの取り組みは新たな段階へ　10月6日

「いいたて漆プロジェクト」遊休農地を生かして

佐藤健太さん（前田）は、約20アールの畑に試験的にウルシの苗木を植え、村外の関係機関や生産者らの協力を得ながら、約170本の手入れを続けてきました。

植樹から7年の今年。樹液を採取する「漆掻き（うるしかき）」を一部の木で行い、安全性や品質を確認することになりました。「漆掻き」は一定の期間をかけて進められる上、一度に採取できる量はごく少量。文化財の補修などに使用される国産の漆は大変貴重です。10月6日の15回目の「漆掻き」で、採取量が検体の500ミリリットルに達しました。

その後の検査で安全性が確認され、引き続き成分検査が進められています。佐藤さんは「栽培に時間はかかるが、村の誇りとなるような作物となる可能性を秘めている。採取した漆で立村70周年の記念となるものをつくってみたい」と話していました。



奥久慈漆生産組合の神長正則顧問が漆掻きを行いました。右が佐藤さん。



採取した樹液の状態を確認。容器に移し県の検査機関に提出しました。





プロジェクトに協力する関係機関の皆さんも来村し、この日の作業を見守りました。秋を迎えウルシの実も観察できました。

〈編集後記〉

70周年イベントにて、10大ニュースの作成と発表の司会を務めさせていただきました。ある方から「この10大ニュース以外でも、一人ひとりの中に、それぞれの1番の思い出や出来事があるんだよね」という言葉を聞いて、確かにその通りだと思いました。この企画が皆様にとっての村での1番の思い出を振り返るきっかけになればと思います。令和8年の10大ニュースもお楽しみに！（巻野）

いいたてっ子発表会・赤蜻蛉祭は今年も本当に素晴らしく、スローガンにある通り「希望の力」をたくさんもらいました。一瞬一瞬を大切に、仲間を思い支え合いながらステージをつくり上げていく姿は輝いていて、どの場面も表現も心に沁みました。いいたてっ子の皆さん、ありがとう！（星）

